

3年生学年便り

平成 27 (2015)年 6 月 5 日
第 1 5 号
吹田市立第二中学校第三学年

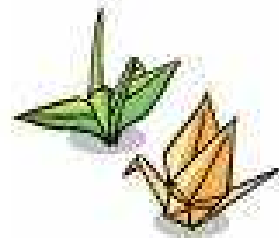
右の新聞記事を見て、
みなさんはどう思いますか？

私たちは、いよいよ来週の水曜日から修学旅行に出発します。

その大きな目的の一つが平和学習です。「島唄」の学習や「ひめゆりの塔」の鑑賞など事前学習を行いました。沖縄では平和セシモニーやひめゆり平和祈念資料館の見学、そして系数アブチラガマの体験学習を行います。

あなたたちは右の記事を読み、どんなことを感じますか。また、自分自身や学年の仲間にとって大切な心がけはどんなことでしょうか。

沖縄での平和体験学習があなたたちの心に深く響くものであってほしいです。



被爆者に「死に損ない」

修学旅行で5月に長崎市を訪れた横浜市立中3年の生徒が、長崎原爆の爆心地近くを案内した被爆者の森口眞さん(77)に「長崎市に「死に損ない」などの暴言を吐いていたことが分かった。森口さんは「私は死に損ないではない。一生懸命生きてきた。大変悲しい」と同中学に手紙で抗議。校長が電話で謝罪した。

森口さんは8歳の時に入市被爆し、被爆者らで作る「長崎の証言の会」の事務局長。森口さんによると、同中学3年の生徒

長崎・平和学習で中3

手紙で抗議 横浜の校長謝罪

119人が長崎を訪れ、同会は爆心地近くを案内するよう依頼を受けた。5月27日、平和公園で事前に生徒たちに会の趣旨などを説明していたところ、騒いで話を聞かない生徒がいたため注意した。

その後、約10人の班に分かれ、森口さんがうち1班を爆心地から約700mの山里小へ案内したところ、班外の男子生徒数人が森口さんに「死に損ないのくそじじい」と罵声を浴びせた。別の生徒たちにも「手をたたけ」とはやし立て、森口さんの説明を邪魔した。引率の教師が注意したが止められなかった。

森口さんは「平和学習の前に、子供たちの人を思いやる気持ちを育てていただきたい」などと書いた手紙を同中学に送った。

学校によると、森口さんが説明していた際、私語を続けている1人の男子生徒に「聞く気がないなら出て行け」などと何度も吐く場面があり、生徒は退席させられた。暴言を吐いた男子生徒らは「そうしたらやり取りに腹が立った」と話している。校長は「自分たちの発した言葉が森口さんにとってどれほどつらく悲しい言葉だったのかを伝え、反省を促していきたい」と話している。